別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記5の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業(都道府県広域捕獲活動支援事業)、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業、シカ・クマ特別対策等事業の評価報告(令和7年度報告)

## 1 被害防止計画の作成数、特徴等

令和7年9月現在で、管内24市町村のうち23市町村で被害防止計画を策定している。佐那河内村と神山町が2町村で連携した広域の被害防止計画を策定している。 被害の大きい歌種は、シカ、イノシシ、サルの順で、これら3獣種で被害の約9割を占める。対策としてはシカ、イノシシについては侵入防止柵の整備と個体数管理、ニホンザルについてはテレメトリーを用いた群管理とそれを基にした個体数管理、モンキードックによる追い払い、侵入防止柵の整備などが主体となっている。

鳥獣被害防止総合対策推進事業については、協議会の開催等により被害や個体数状況などの情報共有ができており、関係機関が連携した対策が行われている。また、侵入防止柵と一体となった捕獲艦の導入により、被害対策効果の認められる協議会がある。 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業については、侵入防止柵の整備により概ね被害が防止できている。 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業については、捕獲数が増加していることから被害防止効果に寄与していると考えられる。 シカ・クマ特別対策等事業については、シカの捕獲数が増加していることから被害防止効果に寄与していると考えられる。

## 3 被害防止計画の目標達成状況

今年度は、3計画(石井町、吉野川市、つるぎ町)で事業評価を実施し、達成状況は以下のとおりである。 <計画ごとの達成状況> 石井町 被害金額:9万円(達成率206.6%)、被害面積:0.05ha(達成率45

被害金額:9万円(達成率206.6%)、被害面積:0.05ha(達成率45.0%) 【うちイノンシ:被害金額:3万円(達成率-153.7%)、被害面積:0.03ha(達成率-120.0%) カモ類:被害金額:6万円(達成率261.7%)、被害面積:0.02ha(達成率210.0%)】 → イノシシ(33%)とカモ類(67%)が事業評価の対象 ○全体の達成状況 → 一部達成となった。 ○対象鳥獣ごとの達成状況 → カモ類が達成、イノシシが未達成となった。

吉野川市

被害金額:513万円(達成率-318.1%)、被害面積:1.62ha(達成率-741.5%) 【うちインシ:被害金額:18万円(達成率869.1%)、被害面積:0.18ha(達成率628.3%) シカ:被害金額:479万円(達成率-2435.3%)、被害面積:1.40ha(達成率-3770.3%) サル:被害金額:18万円(達成率766.9%)、被害面積:0.04ha(達成率377.0%)】 → シカ(93%)が事業評価の対象 ○全体の達成状況 → 未達成となった。

つるぎ町

被害金額:119万円(達成率-262.5%)、被害面積:0.33ha(達成率133.3%) 【うちインシ:被害金額:16万円(達成率-262.5%)、被害面積:0.08ha(達成率130.0%) シカ:被害金額:67万円(達成率-312.5%)、被害面積:0.19ha(達成率0.0%) サル:被害金額:36万円(達成率-950.0%)、被害面積:0.08ha(達成率100.0%)】 → シカ(56%)が事業評価の対象 ○全体の達成状況 → 一部達成となった。 ○対象鳥獣ごとの達成状況 → シカが未達成となった。

## 4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

	地区10017の10	1	1	<u> </u>	1			1		被害防止計画の目標と実績										<u> </u>
事業実施主体名	対象 地域	実施 年度	対象	事業内容	事業量	管理主体	供用 開始	利用率・ 稼働率	事業効果	被害金額(万円) 被害面積(ha)								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
(協議会名)										現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率			
	〇被害防止計画	1	イノシシ	1	_	1	1	1	T	1 2	1 1	1 3	-153.7%	0.02	0.01	0.03	-120.0%		イノシシの捕獲数が増加しているため、効果的な捕獲と防除対	豚熱の流行が収まり、個体数 が増加に転じていると考えられ
			カモ類							19 <del>1</del> 121	14	6	261.7% #+206.6%	0.04 計0.06	0.03 計0.04	0.02 計0.05	210.0% 計45.0%		策を継続し、被害の軽減が図られるよう期待する。カモ類は地	るため被害金額を減らしていく には捕獲や効率的な防除体制
	1鳥獸被害防止総合	対策推進事態	<u> </u>		-	1				āTZI	at is	DI ĀTS	āT206.6%	āTU.Ub	āTU.04	āTU.U3	āT45.U%		域住民の意識も高まり、被害軽減に一定の効果が見られたこと	の構築が必要である。 
	2鳥獸被害防止総合	対策整備事態	<u>k</u>																」は評価できる。	
	3鳥獸被害防止緊急	l捕獲活動支担	[本業																1	
石井町鳥獣被害防 止対策協議会	全域	R4	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	13	-	-	-	R4、R5は豚熱の影響もあり、イノシシの捕獲が減少したが、R6は39頭捕獲しており、捕獲により被害低減の効果が見られる。									有害鳥獣の捕獲数は年々増加傾向であ るが、獣類の目撃報告等は未だ減少して	1	
			シカ(成獣)		30	-	-	-										いないことから、駆除数に対し、繁殖数の 方が上回っていると考えられる。現状で		
			カラス		3	-	-	-										は、被害金額も減っていないため、引き続き捕獲や防除体制を整えていく必要があ		
			カワウ		37	-	-	-										ବିତ		
	全域	R5	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	4	-	-	-												
			シカ(成獣)		39	-	-	-												
			カラス		49	-	-	-												
	全域	R6	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	39	-	-	-												
			シカ(成獣)		44	-	-	-												
			カラス		12	_	-	-												
			カワウ		29	-	-	-												
	〇被害防止計画	•	•		•	•		•							,				イノシシやサルは、侵入防止柵	交付金で実施した防護柵設置
			イノシシ シカ							138 138	124	1 16 1 479	869.1% -2435.3%	0.49 0.27	0.44 0.24	0.18 1.40	628.3% -3770.3%		の設置と捕獲の実施により、被 害低減に効果を上げていると思	や重点的に捕獲を進めた地域 では効果は現れているものの
			サル							110 計386	98	18	766.9% 計一318.1%	0.12 計0.88	0.1 計0.78	0.04 計1.62	377.0% 計-741.5%		われる。シカ被害は拡大しているが、効果的な捕獲と防除対策	達成できていない。
	1鳥獸被害防止総合	対策推進事態	<u> </u>			I		1		g 300	81340	) <u>alala</u>	g -316.1 <i>n</i>	ā ( U.00	B10.76	B] 1.02	B -741.Jn		」を継続し、被害の軽減が図られ るよう期待する。	要因としては、防護柵の整備を 行った地区以外へ鳥獣が移動 していること、年々増加してい
	2鳥獸被害防止総合	対策整備事態	ķ.																1	捕獲数以上に個体数が増加していることが挙げられる。
吉野川市有害鳥獣 捕獲対策協議会	鴨島地区 玉取集落	R4	イノシシ、シカ	鳥獣被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵 L=800m	鴨島地区 玉取集落	R5.3.31	1 100	集集第4 第4 第4 第6									整備集落では農作物への被害が減少した。。効果を持続するために、住民が主体となってメンテナンスを継続する。		地域住民は元より、関係機関 が一丸となって防護柵の整備 や捕獲活動等の対策を継続的
	鴨島地区 長谷集落				ワイヤーメッシュ柵 L=460m	鴨島地区 長谷集落	R5.3.3	1 100												に行う必要がある。
	山川地区 旗見集落				ワイヤーメッシュ柵 L=1,200m	山川地区 旗見集落	R5.3.3	1 100												
	山川地区 瀬津集落				ワイヤーメッシュ柵 L=380m	山川地区 瀬津集落	R5.3.3	1 100	4											
	美郷地区 種野集落	1			ワイヤーメッシュ柵 L=1,080m	美郷地区 種野集落	R5.3.3	1 100												
	美郷地区奥丸集落	1			ワイヤーメッシュ柵 L=860m	美郷地区奥丸集落	R5.3.31	1 100												
	美郷地区 古井・中古井集落	†			ワイヤーメッシュ柵 L=260m	美郷地区 古井・中古井集落	R5.3.3	1 100												
	鴨島地区	R5	イノシシ、シカ	鳥獸被害防止施設	ワイヤーメッシュ柵	鴨島地区	R6.3.31	1 100	集落単位でのシカ・イノシシ用の侵入防止柵の整備を強化することで、R5 4 年~R6年で計6.9kmの整備を行った。防護柵の整備を行った集落では被害									整備集落では農作物への被害が減少し た。。効果を持続するために、住民が主体	-	
	山路集落 鴨島地区	1			L=760m ワイヤーメッシュ柵	山路集落	R6.3.3		減少の効果が得られたが、整備を行っていない地域へ鳥獣が移動してい									となってメンテナンスを継続する。		
	寺谷集落				L=340m	寺谷集落	NU.3.3	100												

徳島県

		シカ(成獣)			-	- 1	_					
全域	(R6補正)	イノシシ(成獣)	シカ等緊急捕獲	42	-	-	-					
	R6	シカ(幼獣)		4	-	-	-					
全域	(R5補正)	シカ(成獣)	シカ緊急捕獲	100	-	_	-				えていく必要がある。	
全域	R5 (R5補正) R6	シカ(成獣)	シカ緊急捕獲	136	-	-	_	一切の			シカの捕獲数は年々増加傾向である。しかし、現状では、被害金額自体は増加しているため、引き続き捕獲や防除体制を整	
トシカ・クマ特別対策	DE			<del>                                     </del>	1			捕獲頭数は前年の136頭から179頭へ増加(対前年比131%)。	<del></del>		 これの域獲物は在万増加層向でもスコ	
		タヌキ		2	-	-	-					
		ハクビシン		1	-	-	-					
		サル(成獣)		13	-	-	-					
		シカ(幼獣)		29	-	-	-					
		シカ(成獣)		413	-	-	-					
		イノシシ(幼獣)		16	-	-	-					
全域	R6	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	72	-	-	-					
		カラス		35	-	-	-					
		サル(幼獣)		1	-	-	-					
		サル(成獣)		22	-	-	-					
		シカ(幼獣)		16	-	-	-					
		シカ(成獣)		467	-	-	-					
		イノシシ(幼獣)		11	-	-	-					
全域	R5	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	10	-	-	-					
		カラス		160	-	-	-					
		サル(成獣)		18	-	-	-					
		シカ(幼獣)		4	-	-	-					
		シカ(成獣)		489	-	_	-					
•		イノシシ(幼獣)	-	1	-	-	-				る。しかし、現状では、被告並組主体は 減っていないため、引き続き捕獲や防除 体制を整えていく必要がある。	
全域	R4	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	66	-	-	_	農作物への被害の主な鳥獣であるイノシシ、シカ、サルの捕獲数については年々 増加傾向にある。		<del></del>	 有害鳥獣の捕獲数は年々増加傾向であ る。しかし、現状では、被害金額全体は	
谷·峠集落 鳥獣被害防止緊急	植灌泛動支煙	K.		3段 L=90m	中谷・峠集落		700/8					
郷地区				電気柵	美郷地区	R7.3.31	100%					
郷地区 野集落		サル、シカ		電気柵 3段 L=140m	美郷地区 種野集落	R7.3.31	100%					
川地区 見•横走集落		サル		電気柵 3段 L=355m	山川地区 旗見•横走集落	R7.3.31	100%					
郷地区  谷・峠集落				L=160m	美郷地区 中谷・峠集落	R7.3.31	100%					
野集落				L=700m	種野集落	R7.3.31	100%					
下·土用地·恵美子集落 				ワイヤーメッシュ柵	美郷地区							
<b>美郷地区</b>				ワイヤーメッシュ柵		R7.3.31	100%					
山川地区 類見·横走集落				ワイヤーメッシュ柵	山川地区 旗見·横走集落	R7.3.31	100%					
山川地区 宮島南集落				ワイヤーメッシュ柵 L=1,360m	山川地区 宮島南集落	R7.3.31	100%					
島地区  山田・芝生集落				ワイヤーメッシュ柵 L=400m	山田·芝生集落	R7.3.31	100%					
鳴島地区 上浦集落	R6	イノシシ、シカ	鳥獸被害防止施設	-	上浦集落	R7.3.31		で、R6年~R7年で計4.8kmの整備を行った。防護柵の整備を行った集落で は被害減少の効果が得られたが、整備を行っていない地域へ鳥獣が移動 している。			た。。効果を持続するために、住民が主体 となってメンテナンスを継続する。	
井頭集落				L=1,000m	井頭集落	R6.3.31	100%	集落単位でのシカ・イノシシ・サル用の侵入防止柵の整備を強化すること			整備集落では農作物への被害が減少し	
大野·丸山集落 美郷地区				L=520m ワイヤーメッシュ柵	大野·丸山集落 美郷地区							
場下·上谷集落 美郷地区				ワイヤーメッシュ柵	湯下·上谷集落 美郷地区	R6.3.31	100%					
<b>長郷地区</b>				ワイヤーメッシュ柵	美郷地区	R6.3.31	100%					
美郷地区 成戸集落				ワイヤーメッシュ柵	美郷地区城戸集落	R6.3.31	100%					
美郷地区 品野集落				ワイヤーメッシュ柵 L=1,500m	美郷地区 品野集落	R6.3.31	100%					
山川地区 川田舟戸東集落				ワイヤーメッシュ柵 L=600m	山川地区 川田舟戸東集落	R6.3.31	100%					
				L 040III	東麦原集落							
山川地区 東麦原集落	ĺ			ワイヤーメッシュ柵 L=540m	山川地区	R6.3.31	100%	1 1	1 1 1		1	

	〇被害防止計画																			捕獲活動を中心とした対策の
			イノシシ ニホンジカ ニホンザル							244 616 242 計1,102	240 600 230 計1,070	164 666 356 <u>ā</u> †1,186	2000.0% -312.5% -950.0%	0.09 0.19 0.09 計0.37	0.08 0.18 0.08 計0.34	0.06 0.19 0.08 計0.33	300.0% 0.0% 100.0% 計133.3%		被害面積を軽減していることは	効果により、イノシシでは被害 金額が減少している。一方で、 ニホンジカ、ニホンザルでは被
	1鳥獸被害防止総合	対策推進事業			•							•		•					1970	れの調査や、大型おりでの部 分捕獲・全頭捕獲が進んでいる
	2鳥獸被害防止総合	対策整備事業																		ため、計画的な管理ができており、今後対策の効果について注
	3鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業															視する必要がある。また、ニホンジカに関しては、捕				
つるぎ町有害鳥獣捕 獲対策協議会	全域	R4	イノシシ(成獣)	緊急捕獲	191	-	-	1	R5年度以降も町単独事業で対策を実施している。毎年、捕獲頭数は増加しており、被害低減の効果はあるものの、獣害による苦情は増加傾向にある。									捕獲員の高齢化により、班員数が減少傾向にある中で、3獣種の合計で1,500頭以		獲員の確保など、個体数管理 の体制自体に限界が来ている
			イノシシ(幼獣)		3	-	-	-										上を捕獲したことは大きな成果だと考える。また、班員においては、コロナ禍での		ため、十分な捕獲圧をかけることができるよう、新規の捕獲人
			シカ(成獣)		1234	_	-	-										活動にも関わらず、町全体の鳥獣被害防止に努めてくれた。 現状として、捕獲数は増加傾向にあるもの		員の確保や、防護柵の設置など、被害対策への取組が引き 続き必要になると考えられる。
			シカ(幼獣)		52	_	-	-										の、獣害による住民からの相談件数は増えている。		例に必要になると考えられる。
			サル(成獣)		32	_	-	-										今後においても、新規の捕獲班員数の確 保に努め、更なる組織の体制強化を図っ		
			サル(幼獣)		1	-	-	-										ていく。		
	4シカ・クマ特別対策	等事業(R5:シ	力特別対策等事	東)	•	•				-	-	-	-	-	-	-	-			柑橘類の被害が大きいため、
勝浦町有害鳥獣捕 獲対策協議会	全域	R6 (R5補正)	シカ(成獣)	シカ特別対策 シカの集中捕獲	200	_	-	1	シカの捕獲頭数全体で対前年比108%あり、個体数減少の成果があった。									シカの捕獲数は年々増加傾向であるが、 農作物被害金額自体は減っていないた め、引き続き捕獲や防除体制を整えていく 必要がある。	除体制の整備により、被害軽減 が図られることを期待する。	果樹園地周辺の捕獲の強化や 防除体制の整備を整える。
	4シカ・クマ特別対策	等事業(R5:シ	力特別対策等事	<u> </u> 集)	·					-	-	-	-	-	-	-	-		捕獲目標を上回る捕獲が実施	シカの捕獲実績及び導入した
三好市鳥獣被害防 止対策協議会	全域	R6 (R5補正)	シカ(成獣)	シカ特別対策 シカの集中捕獲	171	-	-	-	シカの捕獲目標として当初計画で150頭を目標値としていたが、実績では171頭捕獲し、達成率は114%となった。									シカの捕獲数は例年横這いであるもの の、シカの被害報告等は増加しているた め、引き続き捕獲及び防除活動を行って	されている。今後も捕獲と防除対策を継続し、被害の軽減が	捕獲罠の稼働率から十分な事業効果があったと考えられる。
			シカ		捕獲罠の導入 くくりわな 20基	三好市鳥獣被害防 止対策協議会が管 理し猟友会へ貸し出	R7.2.1	1009										いく必要がある。		
	(鳥獣被害防止都道	<b>有県活動支援</b>	事業)	L	1	U	l			-	-	-	-	-	-	-	-		サルの行動解析による効果的	-
德島県	-	R6	-	新技術実証・普及活動 ・ニホンザル対策強化 人材育成活動 ・鳥獣被害対策を指導できる人材の育成 ・カワウの効果的な防除手法の普及 ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組 ・ジビエの型加工技術向上のための研修 ・豚熱発生地域での安全なジビエ利用の検証 ・ジビエの衛生的な処理のための人材育成	-	-	-	-	新技術実証・普及活動では、GPSを用いたサルの行動解析に基づく、効率的な大型圏・いなによる補機の実証を行い、補援を推進するともに、市町村や地域住民への研修金や集落環境の整備を行い、農作物被害の軽減を図った。 人材育成活動では、地域の鳥獣被害対策の核となる鳥獣被害対策指導員を新たに6人育成した。 カワウ対策では、優良事例の情報収集や普及啓発を行い、カワウによる内水面漁業への被害軽減を図った。 ジビエ利用拡大では、ジビエの安全衛生に関する知識と補機技術を兼ね備えた「ジビエハンター」を育成するため、国のジビエハンター研修会や解体処理講習会を開催した。 ジビス処理加工能設やジビエの細菌検査を行い、ジビエ処理及び施設管理の衛生管理対策の向上を図った。 豚熱発生地域でのジビエ利用では、									サルの効率的な捕獲の実証では、サルの生息域が明らかとなってきたことから、今後は蓄積したデータを基により効率的な捕獲に活かすとともに、他地域での技術普及に取り組む必要がある。 人材育成では、鳥獣被害対策指導員が現場で活躍するため、最新技術の紹介など研修内容を工夫のうえ、教術技術の紹介など研修内容を工夫のうえ、後の経済を進める必要がある。かけでは、今後も技術普及や博報共有などを通じて対策を進める必要がある。かけ、ラインに基づく衛生的な処理及び施設管理の徹底を図るため、引き続き細度検査を実施する。がビエ利用拡大では、捕獲個体の利活用として、ジビエの更なる普及や安定供給を図るため、今後もジビエハンター」の育成などを実施する。	な捕獲の技術普及を期待する。 人材育成は、一人でも多く鳥獣 被害対策指導員が各地域で配 置されることを期待する。シカは 生息数が増え、県内各地で放 害も大きいことから、効率的な 捕獲活動をフォローアップする	
	(都道府県広域捕獲	是所求的专作支持和人族于太/								-	-		]							
	-	R6	-	実施体制の整備 生息状況調査等 高度補獲人材育成活動	-	_	-	1	実施休制の整備では、東部・南部・西部の圏域毎に広域捕獲推進協議会 を設置し、広域捕獲に向けた捕獲候補場所の選定や時期などの協議を 行った。 生息状況調査等では、市町村境を跨ぐ1カ所の捕獲候補地でシカの生息 状況調査を行った。 広域捕獲活動では、昨年度に生息状況調査を実施した地区内において、 シカの捕獲活動を実施した。									広域相機協議会では、引き続き関係機関と協議し、重点捕獲、広域捕獲など効率 的な捕獲を推進する。 シカの生息状況を行った広域捕獲候補 地域では、県の「鳥獣捕獲推進専門員」 と関係者が連携して、データに基づいた効 率的な捕獲を実施していく必要がある。 鳥獣捕獲実施隊員や狩猟者に対して効 率的な捕獲方法の研修などスキルアップ		
	牟岐町・美波町境 (灘地区)		シカ(成獣)	広域捕獲活動(個体数調整)	35	_	-	_	高度人材育成活動では、市町村の鳥獣捕獲実施隊員や狩猟者を対象に 捕獲技術等のスキルアップ研修を実施した。									に向けた人材育成を引き続き行う。		

- 注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
  2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
  3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
  4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
  5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。
- 6:被害防止計画に定められた全ての対象鳥獣について、鳥獣ごとに実績値や達成率等を記載すること。また、合算達成率も記載すること。 7:次のいずれかに該当する場合には、達成率が低調であると判定すること。 (1)被害面積、被害金額等について、合算達成率が共に70%未満である場合 (2)次に該当する鳥獣種の被害面積、被害金額等について、対象鳥獣ごとの達成率が共に70%未満である場合

- ア 被害金額全体(全ての対象鳥獣における被害金額(実績値)の合計をいう。以下イにおいても同じ。)の2割以上を占めるシカ又はイノシシ

- / 被害金額全体の5割以上を占めるシカ及びイノシシ以外の対象鳥獣 8:目標が未達成となった場合は、「都道府県の評価」の欄に、総合支援チェックシート及び緊急捕獲チェックシートの遵守状況に係る確認結果を記載すること。 なお、遵守状況の確認に当たっては、証拠書類の保存・提出は必須ではない。ただし、聞き取りの結果、書類を保存していると回答があった場合には、当該書類を確認する場合がある。
- 5 都道府県による総合的評価

徳島県全体の令和6年度農作物被害額は、8千647万円(前年度883万円増)、被害面積は、27ha(前年度4ha増)であった。シカによる被害は減少したものの、イノシシ、サルの被害が増加傾向であるため、今後の被害状況を注視し、効果的な被害対策に取り組む必要がある。